

第2章 旧石器時代

第1節 概要（第7図）

鷲谷津遺跡では、昭和63年度から平成2年度までと、平成8年度から平成10年度までの6か年にわたり下層調査を実施した。各年度の調査概要は以下のとおりである。

昭和63年度は、遺跡南半の15,100㎡を対象として確認調査を実施し、ブロック4か所（M28-a, M29-a, P27-a, O28-a ブロック）と単独出土1か所（O27-09 グリッド）を検出した。ブロックの調査は、確認調査の範囲で対応し、終了した。

平成元年度は、遺跡北端の14,100㎡を対象として確認調査を実施し、単独出土1か所（P26-04 グリッド）を検出した。調査対象範囲は遺跡北側の傾斜地が中心であり、遺物の分布はわずかである。調査は確認調査をもって終了した。

平成2年度は、遺跡中央の2,280㎡を対象として確認調査を実施し、ブロック1か所（O27-a ブロック）を検出した。ブロックの調査は、確認調査の範囲で対応し、終了した。

平成8年度は、遺跡北半の8,600㎡を対象として確認調査を実施し、ブロック17か所（L26-a～e, M26-a～f, M27-a・b, N26-a, N27-a, O26-a・b ブロック）と単独出土4か所（M26-20, M27-25, N26-17, N27-06 グリッド）を検出した。ブロックの調査は、970㎡の本調査によって行なった。

平成9年度は、遺跡北側の660㎡を対象として確認調査を実施し、平成8年度に調査したM26-a～c・f ブロックの一部と単独出土2か所（L26-13・15 グリッド）を検出した。ブロックの調査は、188㎡の本調査によって行なった。

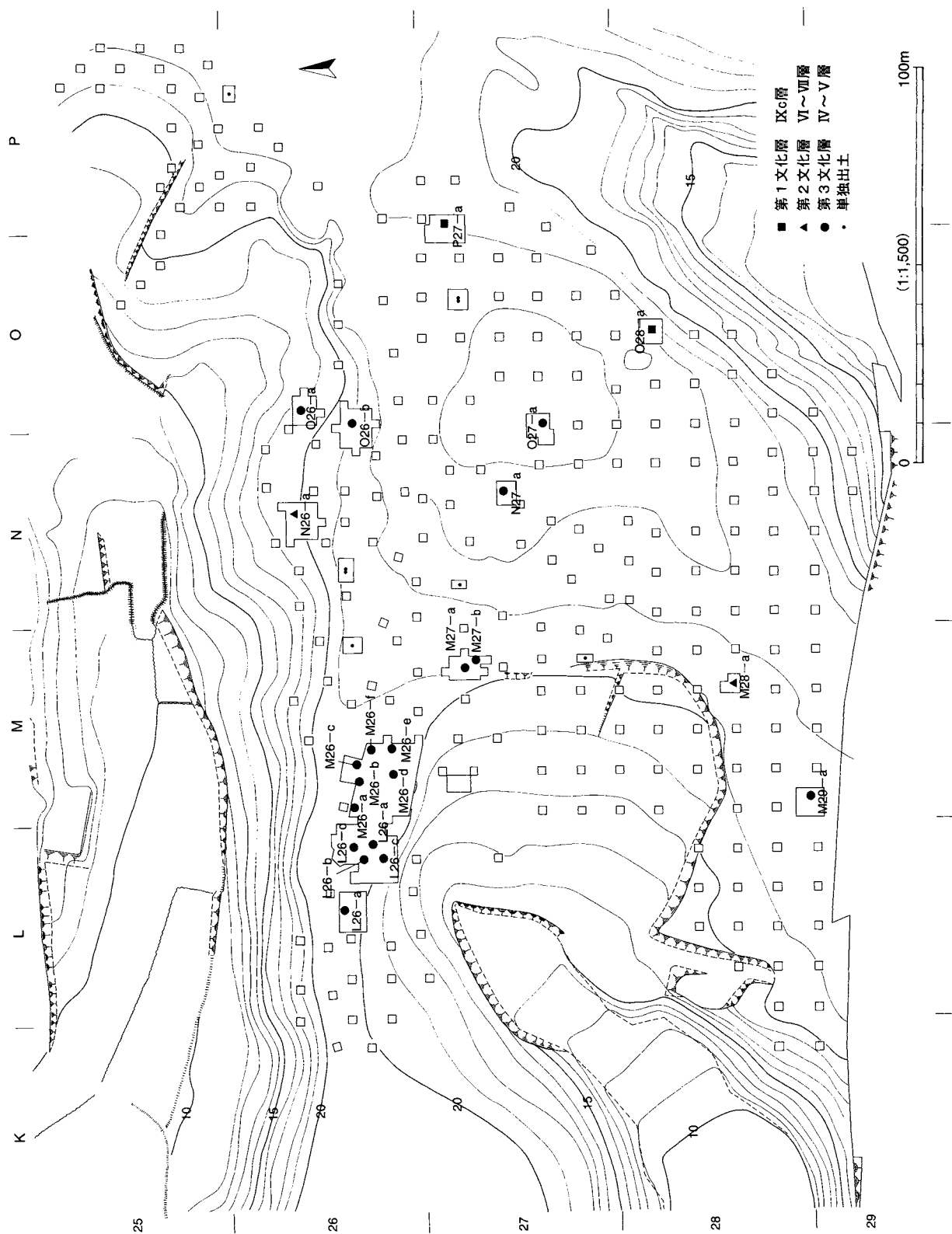
平成10年度は、遺跡中央部の750㎡を対象として確認調査を実施したが、遺物の分布はみられなかった。

以上のように、本遺跡では旧石器時代のブロック22か所と単独出土8か所が検出され、ブロック周辺部の資料を含めて677点の遺物が出土した。また、上層遺構中にも28点の旧石器時代資料が混入していた。

22か所のブロックとその周辺から出土した石器群は、立川ローム層IXc層、VI層下部からVII層、IV層からV層の3枚の文化層に帰属させることができた。IXc層を中心に包含され、本遺跡で最も下位の石器群を第1文化層、VI層下部からVII層の中位の石器群を第2文化層、IV層からV層にかけて包含され、最も上位の石器群を第3文化層とする。石器群の内容をみると、第1文化層は台形石器を指標とする石器群で、石器ブロックが2か所、石器総数は41点である。第2文化層は定型的な石器が乏しい。石器ブロックは2か所で、石器総数は32点である。第3文化層は切出形のナイフ形石器と搔器に特徴があり、石器ブロックは18か所、石器総数は594点である。石器石材は、栃木県高原山産と考えられる黒曜石が中心である。また、搔器がまとまって出土し、刃部再生のあり方に特徴がみられた。石器ブロックの立地は、遺跡北西の、中野台遺跡に連なる台地のくびれ部に第3文化層のブロック11か所が集中的に分布し、それ以外は台地中央から縁辺部にかけて散漫に分布する。

なお、石器の分布図、実測図、組成表で用いた略号は、以下のとおりである。

石器：Kn(★) ナイフ形石器, Tr(△) 台形石器, Ka(▲) 角錐状石器, Po(▲) 槍先形尖頭器, Es(◎) 搔器, Ss(○) 削器, Gr(○) 彫器, Pi(○) 楔形石器, Rf(○) 加工痕ある剥片, Uf(○) 使用痕ある剥片, Bl(▲) 石刃, Bs(▲) 小石刃, Mb(▲) 細石刃, Mc(□) 細石刃核, Sp(●) 削片, Ha(■) 敲石類, Ab(■) 台石, Pe(■) 礫器, Ax(◆) 石斧, B(●) 剥片, C(・) 碎片, D(□) 石核, (*) 礫
石材：Ob(●) 黒曜石, An(○) 安山岩, An(t)(○) 安山岩（トロトロ石）, Rh(□) 流紋岩, Sh(▲) 頁岩, Csh(▲) 珪質頁岩, Ch(△) チャート, Tu(▲) 凝灰岩, Sl(◎) 粘板岩, Sa(▲) 砂岩, Ho(★) ホルンフェルス, Qu(◇) 石英, Ag(■) 瑪瑙・玉髄



第7図 旧石器時代調査概要図 (1:1,500)